

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

平成24年3月号

編 集

発 行 人

武田 隆久

〒102-8414 東京都千代田区一番町13-3

社団法人 日本病院会 通信教育課

TEL 03-5215-6647 (受講生専用)

FAX 03-5215-6648 (受講生専用)

URL <http://www.jha-e.com/>

受付時間

9:00~17:00
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)

発行日

毎月1日

定 価

1部 150円 1カ年1,600円(送料共)

郵便振替

00190-5-396045

名 義

社団法人 日本病院会 通信教育部

病歴記載今昔

海瀬 和郎

国立病院機構仙台医療センター 統括診療部長
宮城会場 基礎課程(臨床医学各論Ⅲ)講師

我々の病院の病歴が平成24年1月1日から電子カルテで運用されるようになりました。長年紙面に向かって文章を書いていたものにとっては導入当初一抹の不安がありました。職種間の指示連絡において一部改善の余地はあるものの、病歴の記載については支障なく運用が開始されました。従来利用していた8年前の情報システム機器にくらべて機材の性能は飛躍的に向上しており、医師の記載すべき項目は増加しましたが、思ったほどの混乱も発生しませんでした。

その中で、病名を入力する際に、DPCでの医事請求に利用しやすい病名が数多く登録されているため病名の登録時に迷うことがあります。病名は病気の概念を表すために作られています。誰もが共通の概念で病名を使用することで病気の原因の解明や治療法の開発に有用だと思われま

す。我が国で用いられている病名は、嘗ては統一されたものはありませんでしたので極端なことをいうと勝手に作ることも可能であったようですが、現在はICDに準拠した病名が電子カルテに登録されて利用されています。外国語の翻訳であるため一部の病名については分類に違和感がありますが、統一された根拠の下での病名ということが出来ますので診療情報を管理する皆様にとっても便利になっています。

私が医学部の学生であった頃はドイツ語の病名と英語の病名が混在して使用されていました。解剖学の講義でもっばらラテン語名が使用されていました。病歴の記載事項の中にはドイツ語が混在していました。現在でもムンテラやポリクリなどの言葉はまだ使われていますしカルテという言葉自体がドイツ語由来です。

しかし電子カルテでは英語辞書は搭載されていますが日本語での記載が基準となっています。キーボードに苦戦する身にはドイツ語の入力は大変です。自然と日本語で入力するようになりました。

様々な職種の病院職員が病歴を利用するためには活字体で読みやすいことは素晴らしいことですが、ドイツ語が混じった、個性に満ちた、時には判読に手間のかかるカルテを懐かしんでいる医者があることも覚えておいて下さい。